

エコアクション21 環境経営レポート

2023年度

(対象期間 2023年3月 ～ 2024年2月)

2024年 5月 1日 作成



高圧化工株式会社



目 次

- 1、組織の概要
- 2、主要設備概要
- 3、EA21活動組織図
- 4、環境経営方針
- 5、環境経営目標
- 6、環境経営目標と実績
- 7、環境経営計画の取り組み
- 8、環境関連法規一覧及び遵守状況
- 9、各種活動報告
- 10、代表者による評価・見直し

1、組織の概要

①事業所名及び代表者名

高压化工株式会社

代表取締役 荒木琢実

②創業年 : 1947年創業

法人設立: 1954年 高压化工株式会社 設立

③所在地及び認証登録の対象範囲

本社・営業事務所

〒158-0094 東京都世田谷区玉川3-6-1 第6明友ビル4F

電話番号 03-3707-7301

FAX 03-3707-7202

千葉工場

〒289-2505 千葉県旭市鎌数10815番地（あさひ鎌数工業団地内）

電話番号 0479-62-2066

FAX 0479-63-6885

④環境管理責任者及び事務局

責任者

代表取締役: 荒木琢実

事務局

総務部: 湯浅義之、品質管理課: 豊田勉、総務部久保定男

⑤事業内容

プラスチック容器の開発・設計・製造・販売

⑥事業の規模

資本金 97,020,000円

売上高 285,046 万円(2023年3月1日～2024年2月28日)

従業員数 219名(千葉工場204名、本社15名)

工場建屋面積 9,583.48(m²)

本社床面積 182.24(m²)

⑦事業年度

3月1日 ～ 2月29日

⑧主要製品

・プラスチック製化粧品容器全般、体外診断薬容器、健康食品容器等



2、千葉工場 主要設備概要

各種成形機から、真空蒸着・UV塗装・印刷・HS・シュリンク等の加工設備、コンパクト容器の組立ラインなどを自社内設備しておりますので、製造から納品まで一貫して行う事が可能です。

2021年度現在

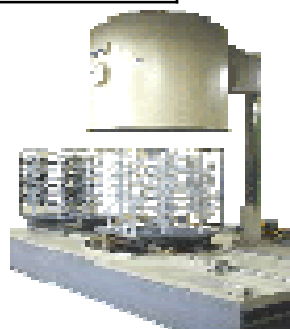
項 目		台数
成形設備		
射出成型機(23)	50t	1
	100～110t	4
	130～150t	10
	170～180t	8
2軸延伸ブロー成型機(6)		6
中空成型機(3)	45mm	2
	50mm	1
加工設備		
真空蒸着装置		2
UV塗装加工ライン		2
シュリンクフィルム加工装置		5
手動スクリーン印刷機		5
丸物用自動2色UV印刷機		1
丸物小物用自動UV印刷機		3
オーバル用自動2色UV印刷機		1
自動2色UV印刷機		1
パッド印刷機		3
直圧箔押し機		8
直圧箔押し機(ボトル自動機)		1
サーボ箔押し機		3
転がし箔押し機		1
ロール転写機		3
超音波溶着機		7



射出成型機

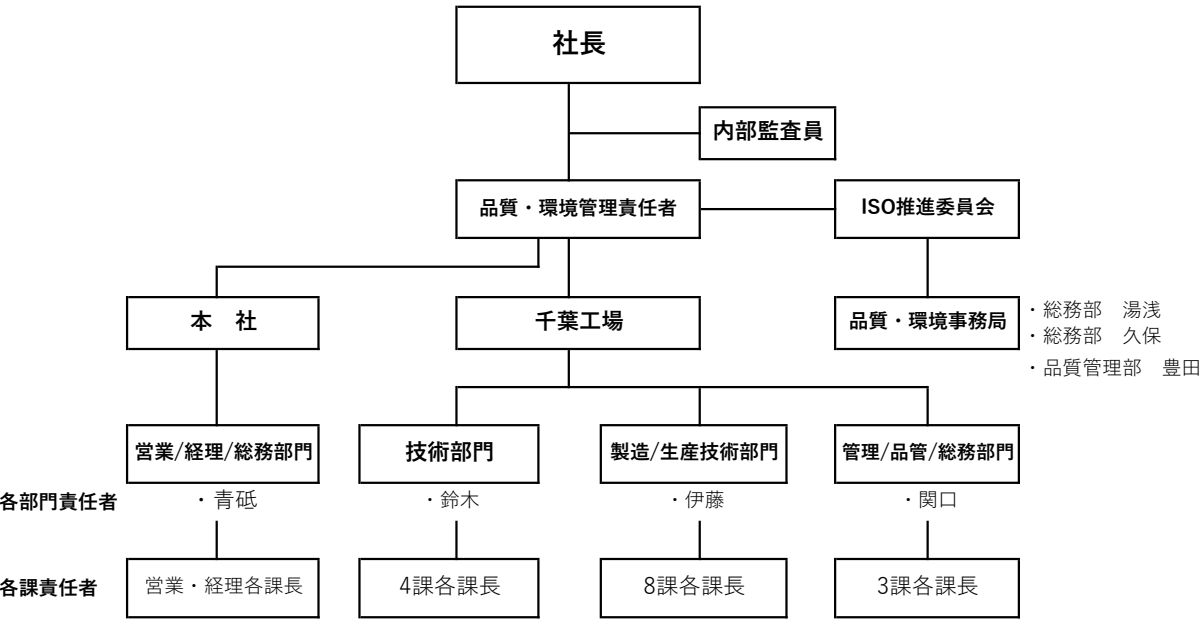


PET2軸延伸ブロー成型機



真空蒸着装置

3、EA21活動組織図



役割分担

	役割・責任・権限
社長	・環境経営全般に関する責任と権限 ・環境経営方針の策定、見直し、従業員への周知 ・環境管理責任者の任命 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営における必要な資源の準備 ・代表者による全体の評価と見直し実施
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、管理 ・環境経営目標、環境経営計画の作成 ・環境関連法規の把握と管理 ・環境教育、訓練の実施 ・問題点発生に対する是正、予防措置の対応
ISO推進委員会	・プロセス監視
内部監査員	・EA21の環境活動への取組が適切に行われているか確認 ・監査計画の立案と監査結果の報告
環境事務局	・環境経営レポート、文書、記録の作成 ・環境に関する内部監査の計画、実施、報告 ・環境関連法規取りまとめ ・環境に関する教育・訓練の計画 ・活動の啓発、活動内容、結果の周知、公表など
4部門責任者	・工場の環境活動計画の実施状況確認 ・作業教育の実施 ・各現場への評価、改善指示
全従業員	・環境経営方針の理解と、環境への取組の重要性を自覚する ・決められたことを守り、自主的に環境活動へ参加する ・活動計画への実施、記録

4、環境経営方針

環境経営方針

当社はプラスチック関連製造事業を行っており、その業務遂行過程において発生する地球環境保全に影響を与える諸課題に対し、全従業員一丸となって持続可能な社会づくりに貢献する事を宣言します。

環境経営目標

- ① 二酸化炭素排出量の削減
- ② 廃棄物排出量の削減
- ③ 水使用量の削減
- ④ 化学物質使用量の管理
- ⑤ 社会貢献活動の実施
- ⑥ 環境に配慮した製品の提案

行動指針

- ①二酸化炭素排出量、廃棄物、総排水量等の削減に努めます
 - 1) 不良率削減によりムダな材料、ムダなエネルギー使用の削減に努めます
 - 2) 環境に配慮した原料の使用・技術開発及び、グリーン購入の推進に努めます
 - 3) 5S活動、作業効率化によりムダのないモノづくりを目指します
 - 4) 化学物質使用量の適正管理と削減に努めます
 - 5) 積極的な設備の見直し、更新により省エネ及び高効率化に取り組みます
- ②環境関連法規制等の順守
環境に関する法規制、条例及び顧客要求事項を遵守します
- ③環境活動の継続
環境目標を設定し、定期的に見直し継続的改善を遵守します
- ④環境コミュニケーションの実施
環境方針は組織で働くまたは組織のために働く人に周知し、環境意識向上を図ると共に社内外に公開します

制定日 2022年08月01日
高压化工株式会社
代表取締役 荒木琢実

5、中期環境経営目標

					年度目標			
No.	環 境 目 標		単位	2021年度 (基準年)	2022年度目標 (基準年比1%削減)	2023年度目標 (基準年比2%削減)	2024年度目標 (基準年比3%削減)	
1	二酸化炭素排出量 の削減	CO2排出量の削減	総量(Kg-CO2)	2,645,632	2,619,176	2,592,719	2,566,263	
			原単位 (Kg-CO2/百万円)	963	953	944	934	
		内 訳	購入電力 (千葉工場)	総量(Kg-CO2) (99.1%)	2,620,791	2,594,583	2,568,375	2,542,167
				原単位 (Kg-CO2/百万円)	954	944	935	925
			購入電力 (本社)	総量(Kg-CO2) (0.2%)	6,233	6,171	6,108	6,046
				原単位 (Kg-CO2/百万円)	2.0	1.98	1.96	1.94
			化石燃料	総量(Kg-CO2) (0.7%)	18,608	18,420	18,234	18,048
				原単位 (Kg-CO2/百万円)	6.7	6.63	6.57	6.50
		電力消費量		kW h	5,812,000	5,753,880	5,695,760	5,637,640
		燃 料 消 費 量	ガソリン	総量 (L)	4,775	4,727	4,680	4,632
				原単位 (Kg-CO2/百万円)	2.09	2.07	2.05	2.03
			軽油	総量 (L)	611	605	599	593
				原単位 (Kg-CO2/百万円)	0.22	0.22	0.22	0.21
			灯油	総量 (L)	60	59	59	58
				原単位 (Kg-CO2/百万円)	0.02	0.02	0.02	0.02
			液化石油ガス (LPG)	総量 (Kg)	1,935	1,916	1,896	1,877
				原単位 (Kg-CO2/百万円)	0.70	0.69	0.69	0.68
2	廃棄物排出量の削減	内 訳	廃プラ	総量 (Kg)	135,050	133,700	132,349	130,999
				原単位 (Kg/百万円)	49.18	48.69	48.20	47.70
			廃塗料	総量 (Kg)	21,472	21,257	21,043	20,828
				原単位 (Kg/百万円)	7.82	7.74	7.66	7.59
			一般廃棄物 (紙類)	総量 (Kg)	計測無し	2022年10月より測定	実績把握 (42,415)	41,990
				原単位 (Kg/百万円)			同上	
3	水使用量の削減	内 訳	千葉工場 (上水、地下水)	上水総量 (㎡)	3,099	3,068	3,037	3,006
				地下水総量(㎡)	計測無し	2022年10月から 計測開始	32,713(実測値、 基準年数値とする)	32,385(基準年比1% 削減)
				原単位 (㎡/百万円)			同上	
			本社(上水のみ)	総量 (㎡)	138	137	135	134
				原単位 (㎡/百万円)	0.05	0.05	0.05	0.05
4	化学物質使用量の 管理(排出量)	化管法(PRTR法)特定化学物質(抜粋5 種)の排出量の把握等及び管理 (Kg)		10,770	10,662	10,555	10,447	
5	社会貢献活動の実施	工場内及び周辺環境の美化活動		活動実施	活動実施	活動実施	活動実施	
6	環境に配慮した 製品の提案	バイオマス材料、リサイクル材料の 試作・提案 (採用件数/総件数)		0/42件	採用増目標	採用増目標	採用増目標	

* 基準年度：2021年3月～2022年2月(弊社事業年度とする)

* 原単位の算出は、実績：製品売上額 にて算出。 * 2021年度製品売上額：2,746(百万円)

* 一般廃棄物排出量については、毎月定額での処理方法を利用している為、計測無しとした。今後計測を行う。

* 千葉工場の水使用量については地下水使用量データが無い為、計測無しとした。2022年10月1日に地下水量メータを設置したので、10月以降は上水と地下水使用量のデータを計測する。

* 購入電力の排出係数は、0.452kg-CO2/kWh【2021年度、東京電力エナジーパートナー(株)】を適用。

6、環境経営目標の実績（2023年3月～2024年2月実績）

No.	環 境 目 標		単位	2021年 (基準年)	2023年度				
				年間実績	年間目標 (基準年比2%削減)	年間実績 (2023.3月～2024.2月)	評価	コメント	
1	二酸化炭素排出量の削減	CO2排出量の削減	総量(Kg-CO2)	2,645,632	2,592,720	2,497,378	○	CO2排出総量は基準年対比約4.5%の削減。原単位は製品売上額減少に比例している。	
			原単位 (Kg-CO2/百万円)	963	944	970	×		
			内 訳	購入電力 (千葉工場)	総量(Kg-CO2) (99.1%)	2,620,791	2,568,375		2,473,028
		原単位 (Kg-CO2/百万円)			954	935	950	×	
		購入電力 (本社)		総量(Kg-CO2) (0.2%)	6,233	6,109	5,574	○	
				原単位 (Kg-CO2/百万円)	2.0	1.96	2.16	×	
		化石燃料		総量(Kg-CO2) (0.7%)	18,608	18,236	18,776	×	
				原単位 (Kg-CO2/百万円)	6.7	6.57	7.21		
		電力消費量		kW h	5,812,000	5,695,760	5,483,633	○	
		化石燃料消費量	ガソリン	総量 (L)	4,775	4,680	4,501	○	LPGガス使用量が増加している。蒸着UV課のフレーム処理に使用が大半であるが、そもそも少量と思えるが監視は継続する。
				原単位 (L/百万円)	2.09	2.05	1.72		
			軽油	総量 (L)	611	599	510	○	
				原単位 (L/百万円)	0.22	0.22	0.20		
			灯油	総量 (L)	60	59	0	○	
				原単位 (L/百万円)	0.02	0.02	0		
			液化石油ガス (LPG)	総量 (Kg)	1,935	1,896	2,339	×	
				原単位 (Kg/百万円)	0.70	0.69	0.89		
2	廃棄物排出量の削減	内 訳	廃プラ	総量 (Kg)	135,050	132,349	×	不良処分・期限処分を減少するように、監視を継続する。	
				原単位 (Kg/百万円)	49.19	48.21			52.43
			廃塗料	総量 (Kg)	21,472	21,043	○	削減方法が難しいが、引き続き監視を継続する。	
				原単位 (Kg/百万円)	7.82	7.66			7.10
			一般廃棄物 (紙類)	総量 (Kg)	計測無し	2022年10月より測定	42,415		今年度より年間を通して総量を把握できた。この数値を基準として来年度以降の削減を検討。
				原単位 (Kg/百万円)					
3	水道使用量の削減	内 訳	千葉工場 (上水、地下水)	上水総量 (㎡)	3,099	3,037	2,916	○	工場の水道使用量も通年でのデータを把握できた。地下水が大半のデータであったが、監視を継続する。
				地下水総量(㎡)	計測無し	目標値未定	32,713		
				原単位 (㎡/百万円)			13.63		
			本社 (上水のみ)	総量 (㎡)	138	135.0	141	×	
				原単位 (㎡/百万円)	0.05	0.05	0.05		
4	化学物質使用量の管理(排出量)		化管法(PRTR法)特定化学物質(抜粋5種)の排出量の把握等及び管理 (Kg)	10,770	10,555	9,857	○	生産量に比例するが、今年度はトルエン・キシレンを代替品へ変更した改塗料が2点出た。	
5	社会貢献活動の実施		工場内及び周辺環境の美化活動	活動実施	活動実施	活動実施	○	引続き美化活動を継続して行う。	
6	環境に配慮した製品の提案		バイオマス材料、リサイクル材料の試作・提案 (採用件数/総件数)	0/42件	採用増目標	1/33件	○		

* 原単位の算出は、実績÷製品売上額にて算出。 * 2023年度製品売上額：2,602(百万円)

* 購入電力の排出係数は、0.452kg-CO2/kWh【2023年度、東京電力エナジーパートナー(株)】を適用。

7、環境経営計画の取り組み

・省エネルギー、省資源、廃棄物削減、化学物質適正管理・削減等の課題と計画

(1) 二酸化炭素排出量の削減

課題	活動内容	評価	次年度の取組
電気使用量の削減(目標1%減)	・ エアコンの温度管理(各課ごとに最適な設定温度の把握・設定)	○	継続
	・ 昼休みの消灯、不要な場所の消灯	○	継続
ガソリン使用量の削減(目標1%減)	・ エコドライブの徹底(急発進、急停車をしない)	○	継続
	・ 法定速度の遵守	○	継続
軽油使用量の削減(目標1%減)	・ 軽油使用フォークリフト(1台)のエコドライブ	○	継続
灯油使用量の削減(目標1%減)	・ 暖房用に少量使用の為、適正室温管理を行う	○	継続
LPG使用量の削減(目標1%減)	・ LPG使用作業時に無駄な使用をしない様に注意	×	継続

(2) 産業廃棄物排出量の削減

課題	活動内容		
産業廃棄物(廃プラ)の削減(目標1%減)	・ 不良率の削減、分別の徹底(置き場整頓、分別名表示)	○	継続
	・ 月々の廃棄物排出量の確認	○	継続
廃塗料の削減(目標1%減)	・ 生産工程の歩留まり向上、加工ミスによるロスの低減	○	継続
一般廃棄物の削減(目標1%減)	・ 帳票など紙類削減について見直し	○	継続

(3) 水使用量の削減

課題	活動内容		
節水活動の推進	・ 節水表示の掲示	○	継続
	・ クーリングタワーの水量適正管理	○	継続

(4) 紙使用量の削減

課題	活動内容		
紙使用量の削減	・ デジタル端末活用の推進	○	継続
	・ 両面印刷、集約印刷の活用	○	継続

(5) 化学物質の適正管理

課題	活動内容		
有害化学物質の使用・保管 使用法の把握	・ 購入量の把握、新規塗料のSDS入手管理	○	継続
	・ 保管場所、管理の徹底	○	継続

(6) グリーン購入の推進

課題	活動内容		
グリーン購入適合品の優先	・ LED照明への切り替え	○	継続
	・ 事務用品等のグリーン購入検討	○	継続

(7) 社会貢献活動の推進

課題	活動内容		
工場周辺環境の美化活動	・ 工場周辺の地域清掃活動	○	継続
	・ 地域事業への支援、協賛	○	継続

(8) 環境に配慮した製品提案

課題	活動内容		
環境配慮型の材料、技術開発	バイオマス材料、リサイクル材料の試作・提案	○	継続

8、環境関連法規等の遵守状況の確認、並びに違反・訴訟の有無

No	適用される法規制等	適用される事項
1	大気汚染防止法 揮発性有機化合物(VOC)排出規制 (千葉県環境条例)	VOC6トン以上排出、自主的取組計画書 実績報告書の提出
2	浄化槽法	浄化槽の保守点検及び 指定検査機関による水質検査
3	工業用水法(旭市環境保全条例)	地下水採取量の把握
4	悪臭防止法(旭市環境保全条例)	特定施設(吹付塗装)届出
5	化管法	第1種第2種指定化学物質の 排出量把握、届け出
6	PCB廃棄物処理特別措置法	2023年度に廃棄処理済
7	消防法	指定可燃物 合成樹脂類3000kg以上
		危険物倉庫 指定量以上の保管禁止
8	廃棄物処理法	産業廃棄物の分別管理
9	容器包装リサイクル法	排出量に応じた委託料の 支払い義務
10	フロン排出抑制法	冷媒フロン使用機器の点検
11	労働安全衛生法	労働災害防止 健康管理

- ・当社に適用される環境関連法規等の遵守状況チェックの結果、違反は有りませんでした。
また、関係機関等からの指摘や利害関係者からの訴訟や苦情なども有りません。

9、各種活動報告

・事故及び緊急事態発生時の対応を想定した訓練

今年度は旭市消防署職員の指導の下、消火訓練、放水訓練、危険物漏洩時対応の訓練を行う。

- ・水消火器を使用した模擬消火訓練



- ・消火栓を使用した放水訓練



- ・危険物(有機溶剤等)の漏洩時対処訓練



・事故及び緊急事態発生時の緊急連絡訓練

安否確認システムを導入。緊急事態時に全社員への安否確認の一斉送信を行えるようにした。

運用マニュアルを作成し安否確認訓練を計3回実施。社員への緊急事態への意識付けを行う。

・社会貢献活動の推進

周辺環境美化活動の実施

昨年同様に寮跡地の除草作業を継続して実施した。

・5S活動

作業環境の整備・効率化の推進

安全衛生委員会による、作業現場の巡回・整備の指導を行った。

10、代表者による全体の評価と見直し

【実施日】 2024年4月30日

【評価】

- ・ 2021年が基準年であったが、2023年度が全てのデータを取得出来た初年度であった。
3月のEA21登録審査から始まり、BCP、コンプライアンス、情報セキュリティ、個人情報と一通りの法規照合や、弊社独自の新たな取り組みを構築して環境経営活動の基礎的な1年であった。結果として得意先からのアンケート評価点が向上したことは事実であった。
- ・ 環境経営方針に沿った持続可能な社会貢献を目的に、さらなるデータ分析により排出されるCO2や各種廃棄物等の減少への取り組み及び、全社員が周知しやすい仕組み作りに移行して行きます。
2024年度の環境経営計画書が、ISO活動と並行に実施される様に、本年もトップダウン主導にて邁進したい。

【見直し】

環境経営方針	☒ 変更無し	☐ 変更有り
環境経営目標・計画	☒ 変更無し	☐ 変更有り
実施体制	☒ 変更無し	☐ 変更有り